

悲しみに寄り添う場所に

大切な人を亡くした遺族の悲しみに寄り添い支える「グリーンフケア」に取り組み一般社団法人「エッグツリーハウス」(練馬区)が今月、小金井市に拠点「たまごの家」を開設した。これまで活動拠点はなかったが、「ふと立ち寄れる場所を提供したい」と一軒家を借りた。名前には大切な人を亡くした人たちが穏やかに安心して過ごせる、温かい家になりたいとの願いが込められている。



「グリーンフ」(悲嘆)とは、思慕や追慕と共に感じる大きな悲しみ、その苦しみから立ち直ろうと試みる心の動き。平成26年に公認心理師の西尾温文代表理事(65)がエッグツリーハウスを立ち上げ、これまでグリーンフケアに取り組んできた。

自分の体験生かし

西尾さんがグリーンフケアの必要性を感じたのは自身の体験からだ。次女、百珠さんを平成10年に5歳で亡くした。1歳でがんの一種と診断され、骨髄移植を受け一時回復したが、4歳の時に再発。百珠さんの腹は病気で膨らみ、もうすぐ赤ちゃん、生まれるかも一と話した。そうしたことか

小金井に「たまごの家」開設

ある木を描いた。「ももちゃん」が描いた絵がエッグツリーハウスの名の由来です。西尾さんは遺族ケアの必要を感じてアメリカなどで



グリーンフケアのイベントに集まった子供たち(エッグツリーハウス提供、画像処理をしています)

ふと立ち寄れる

エッグツリーハウスの活動では都立小金井公園そばの真蔵院のお堂を借り、「たまごの時間」と名付けたケアのほか、都内などで若者を対象とした「たまごカフェ」や「グリーンフケア キャンプ」など各種イベントを行ってきた。

だが、西尾さんは「悲しい気持ちを抱いた素の自分のままで、ふと立ち寄れる『家』が必要なのは」と思い、真蔵院近くの一軒家を借りて「たまごの家」を開設させた。

西尾さんは「大切な人を亡くした悲しい気持ちは時間が経てば解決できるものではない。必要な時に気持ちが整えられる場所のひとつになれば」と話した。

問い合わせはメール(e.gg.tree.house@gmail.com)まで。



グリーンフケア

身近な人と死別して悲嘆に暮れる人が、その悲しみから立ち直れるようそばにいて支援すること。一方的に励ますのではなく、寄り添う姿勢が大切とさ

れる。1960年代に米国で始まったとされ、日本では平成7年に発生した阪神大震災がグリーンフケアの概念が広まるきっかけとなった。以降、医療機関や市民グループなどで実施されている。